

## 第1章 聖徳グループ保育理念

		項目	ページ	評価	評価・課題
第1章	聖徳グループ保育理念	園の保育理念や基本方針 真宗保育の理念 聖徳グループ職員という意識 職務分担	1~10	A	聖徳グループの職員としての自覚を持ち、保育理念に沿って保育を実践することが出来ている。コミュニケーションの機会を設け、気軽に相談できる関係性の構築を図っていく。

## 第2章 総則

		項目	ページ	評価	評価・課題	
第2章 総則	① 保育所保育に関する基本原則	保育所保育に関する基本原則 ・保育所の役割 ・保育の目標 ・保育の方法 ・保育環境 ・保育所の社会的責任	11~22	A	聖徳グループの保育理念に従い、保育所の役割や社会的責任について、意識しながら保育にあたる事が出来ている。	
	② 養護に関する基本的事項	養護に関する基本的事項 ・養護の理念 ・生命の保持 ・情緒の安定	23~35	A	乳幼児の健やかな成長のために、ひとり一人に応じた保育の提供が出来ている。	
	保育の計画及び評価	・全体的な計画の作成 ・指導計画の展開 ・保育内容 等の評価 ・評価を踏まえた計画の改善	36~41	A	聖徳グループの保育計画をもとに、適切な指導計画が立てられ、子どもの姿に合わせた計画の見直し、改善にも取り組んでいる。	
	保育の計画及び評価	保育の内容 ① 保育の環境		42~50	A	季節を意識した保育を心掛けている。
		保育の内容 ② 乳児保育		51~72	A	子どもが安心して過ごせるような関りが出来ている。
保育の内容 ③ 長時間保育			73~78	A	家庭的な雰囲気を中心掛、寂しさを感じないよう気持ちに寄り添う保育を心掛けている。	
保育の内容 ④ 障害がある子どもの保育			79~89	A	専門機関と連携し、その子にとってより良い関りができるよう努めている。	
保育の内容 ⑤ 子どもの人権		90~96	A	どの子に対しても平等を心掛け、子どもの人権に配慮する関りが持てている。		

### 第3章 保育の内容

		項目	ページ	評価	評価・課題	
第3章 保育の内容	保育の内容 ねらい	乳幼児期に関わるねらいと内容	97～112	A	乳幼児の一人一人に合わせて、気持ちに寄り添い安心できるよう関わっている。	
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育） ① 健康	113～125	A	健康的な生活を送れるように、活動や生活習慣に配慮した保育を行っている。	
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育） ② 人間関係	126～142	A	思いやりや感謝の気持ちが育つよう、関わっている。日頃から「ありがとう」と言葉で感謝の気持ちを伝えることを意識していく。	
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育） ③ 環境	143～158	A	季節を意識した保育の実践を行っている。身近な自然に興味関心を示せるよう、関わっていく。	
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育） ④ 言葉	159～177	A	丁寧な言葉かけを心掛けている。子供たちが話すことを楽しいと感じられるよう、積極的に話しかけていく。	
		教育 3歳未満児保育（1.2歳児保育） ⑤ 表現	178～190	A	様々な表現方法が経験できるよう、工夫した保育の実践が行われている。	
	保育の内容	ねらい	教育 3歳以上児保育 ① 健康	191～203	A	正しい手洗いの仕方や習慣が身につくよう、指導や声掛けの実践が行われている。感染症対策も引き続き継続していく。
			教育 3歳以上児保育 ② 人間関係	204～220	A	友達との関りを見守り、出来るだけ自分たちで解決できるよう配慮して。様々な体験を通して、人との関り方が身につくよう援助していく。
			教育 3歳以上児保育 ③ 環境	221～236	A	様々なことに興味を持てるような環境設定を心掛けていた。命の尊さや季節の移り変わりが感じられるような保育を心掛けていく。
			教育 3歳以上児保育 ④ 言葉	237～255	A	子どもの話に耳を傾け、気持ちをわかってもらえる安心感が感じられるように関わっていた。
			教育 3歳以上児保育 ⑤ 表現	256～268	A	個別保育を通して、表現することが楽しいと感じられるような、自由な表現の機会を設けていた。
	保育の内容 の留意事項	保育の内容 の留意事項	① 保育課程	269～273	A	園の保育理念に沿った保育の内容が実践されている。
			② 指導計画 策定	274～291	A	子どもの発達過程に沿った指導計画が立てられている。
			小学校との連携	292～300	A	コロナウイルス感染症に配慮しつつ、小学校との連携にも取り組んでいた。
			保育内容の自己評価	301～309	A	どの職員も保育に対して真剣に向き合い、アドバイスの素直に耳を傾け、子供の為に尽力を尽くしていた。

### 第4章 健康及び安全

		項目	番号	評価	評価・課題
第4章 健康及び安全	子どもの健康支援	子どもの健康支援	310～321	A	子どもの健康状態を把握し、些細な体調の変化にも素早く気付くことが出来ていた。
	食育の推進	食育の推進	322～335	A	栽培や収穫の楽しさを感じられるよう、たくさんの野菜を植えて育てていった。
	環境及び衛生管理	環境及び衛生管理	336～341	A	衛生面に配慮し、感染症予防に努めていた。
	災害への備え	・安全管理 ・災害への備え	342～349	A	避難訓練・防犯訓練を計画的に行うことで、安全への意識の高まりがみられた。

第5章 保護者に対する支援

		項目	番号	評価	評価・課題
第5章 保護者 に対する 支援	入所している保護者に対する支援	保育園に入所している子どもの保護者に対する支援	350~361	A	送迎の時や面談等の機会、保護者と情報交換を行い、家庭と連携して子どもの成長を見守ることが出来ていた。
	地域における子育て支援	地域における子育て支援	362~365	A	子育て支援の利用者からの相談にもこたえ、地域における保育園の役割に努めていくことができた。
	地域や関係機関との連携	地域や関係機関との連携	366~371	A	ボランティアや職場体験を通して、園関係者以外の人との関わりを持つことができた。

第6章 職員の資質

		項目	番号	評価	評価・課題
第6章 職員の 資質向 上	職員の 資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の資質向上</li> <li>・職員の研修</li> <li>・研修の実施体制</li> </ul>	372~385	A	保育士のスキルアップの為、研修計画が立てられ、計画通り研修を受けることが出来た。

【園全体の評価】

・今年度は、園長と主任が異動により変わったことで、法人方針を知ること、ステートメントブック等の読み合わせ等を行いながら、職員周知と理解が高まるよう進めてきた。全体としては、A判定結果となっていることで、職員一人ひとりの意識が高まっていることがわかり安心できる。一方で、あくまでも個人の評価であるため、それぞれの判断や達成度、価値観等には違いがあると感じる。職員の理解と努力は認めつつ、評価項目を意識した保育の実践をさらに高めてほしい

【来年度の課題】

- ・保育所保育指針からの学び、法人方針のもとに真宗保育×自主的個別保育の理解を深め合い養護と教育をかねた保育の実践に活かしていく。
- ・大谷保育協会による仏教保育研修へ積極的な参加を促し、真の保育の真髄を学ぶ機会を通し自己研鑽に努めるようすすめていく。
- ・ICTシステム導入による保育業務の見直しにより、保育実践に向き合う時間の確保がされ、保育の充実を目指せる。
- ・療育支援、小学校との連携等、子どもの発達支援について、常に新しい情報を共有し合い適した保育の実践に務める。
- ・園内研修の議題を明確にする、職員会議の持ち方を工夫する、モンテッソーリ勉強会の定期的な実施等基本の研修を見直して進めていく。

社会福祉法人聖徳福祉会

森山聖徳保育園 本田 真理子